

『講習の部』

講習会小委員会では、毎年ダム工学だけでなく様々な分野の講師をお招きして講演を実施しています。本年も2名の講師を御招きし、ダムの運用と構造物の維持管理に関連した最新の話題に関する講演を頂きました。

『NEXT SDGS に向けた、水循環領域のアクション提案』

NPO 法人日本水フォーラム 事務局長 細見 寛 様

『NDT とデジタルツインが切り拓く大規模インフラの維持管理』

京都大学 成長戦略本部 特定教授 塩谷 智基 様

細見 寛講師からは、まず日本水フォーラムの活動内容について、続いて NEXT SDGS 2030 へ向けた展望のお話をいただきました。今後の展望の中では、統合水管理の深化について4次元総合水管理+水象予測精度向上、時間別水インフラ多機能化としてのダムのタイムシェアリングに関する内容について紹介いただきました。また提言として、先進的降雨予測に基づく治水・利水の強化、流域全体のダムの統合運用と再編による治水・利水の強化、カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現と治水に貢献する水力開発、さらなる治水の強化と水力発電の増強に向けて説明をいただきました。ご講演の最後には国境なき4D 統合水管理システムの構築へ向けた展望についてご紹介いただきました。

塩谷 智基講師からは、大規模インフラの維持管理に関する話題として、非破壊検査、弾性波トモグラフィーの適用に関する話題を提供いただきました。現在インフラのメンテナンスに関して様々な分野の研究者が横串的に連携して研究している点、海外では国内と異なり維持管理に多くのコストをかけていることを紹介いただき、橋梁の事例をもとに健全性、重要性に応じて対応区分から健全性区分（健全性のしきい値）を考える必要があること、O&Mからバックキャストしたセンシングアプローチ（生涯を見据えた段階的課題の解決）について説明いただきました。続いてマクロ評価としての実験を通した弾性波トモグラフィーの適用事例について、具体的に紹介いただきました。

今回の2名の講師のお話を通して、我々が従事している「ダム事業」を中心とした防災事業について、運用と構造物の維持管理に関して最新的话题を提供いただき、技術者としての使命を改めて認識する良い機会となりました。このような機会をより多くの皆様に提供するためにも、産官学が参加するダム工学会の本会が、情報や意見交換の場として活用されるよう努めていくつもりです。



細見講師による講義



塩谷講師による講義